

保育所保育指針において、保育所は、保育の質の向上を図るため、保育計画の展開や保育士等の自己評価を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について、自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならないとされています。これに基づき、当園では自己評価・利用者意識調査・第三者評価を実施致しました。

R 3年度 職員自己評価

令和3年度を振り返り、職員が自己評価をしました。

《 R 3年度 達成できたと思うこと 》

- ・子どもの生涯の基礎を培う極めて大切な役割を担っていると認識し、すべての子どもについて一人ひとりの存在とその人権を尊重した保育を行うことが出来た。
- ・子どもの気持ちに寄り添い個々の発達に合った保育ができるよう努めた。
- ・一人ひとりの姿を知りよりよい保育をする為に職員間での話し合いを大切にしました。
- ・「子どもの最善の利益」を最優先に職員同士での共通認識の元、丁寧に関わり保育をすることで子どもとの信頼関係を築き、子ども達も安心してのびのびと生活し成長するのが感じられた。
- ・「発達に合った環境とは」をテーマにし、年間を通して取り組んだ園内研修にて、互いのクラス環境について学び、意見を出し合い改善した結果、子ども達が遊びに集中し、より遊びを楽しめる環境になったと思う。結果、遊びの幅が広がり個々の発達を促すことに繋がった。

《 R 4年度 努力するべきこと 》

- ・自分の中で学びたいテーマを見つけ、積極的に研修に参加したり自主学習したりして自己研鑽していく。
- ・子ども一人ひとりの良い所を見つけ伸ばせるような保育の工夫をしていく。
- ・感染対策をしながら、子ども達の成長を見て頂ける行事の開催方法を検討していく。
- ・子どもの気持ちに寄り添ったその場面に適応した素敵な言葉がけができるようになりたい。
- ・もっとよい保育ができるように、保育士同士意見を出し合い成長し合える職場環境にしていく。
- ・保護者への支援…保護者同士の交流の場を設けることができるよう、コロナ禍でもできることはないか検討していく。